

# 教えて先生



ママの悩み



Q

私にはまだ子どもがいません。自分が叩かれたり蹴られたりして育ってきたため、子どもを育てるのが恐く抵抗があります。もしかしたら、自分も同じようにするのはないか？と思うと、子どもは欲しいのですが踏み切れません。私のような悩みをもちながら育てた方のお話などを聞いたらと思っています。

A

あなたが幼い頃、叩かれたり蹴られたりして育ったことが体に強く刻まれていて、子どもは欲しいけど、もし自分が我が子に同じような虐待をしてしまっているのではないかと不安を持っているという何時もとは異なる、少し重い質問に答えてみようと思っただけ、同じような悩みで出産に踏み切れず、ためらっている方が少なくないことを知っているからです。

最近、キレやすい子どもが増えていくことは、私たち保育関係者の間でも話題になっています。

悩んでいるあなたには「やはり！」と不安を増幅するかも知れないと思いつながら、最初にそのことについてみます。

有名な教育学者が「キレる子どもは、育ちの課程で親にキレられた体験をもつ」と述べられています。

幼い時に受けた心の傷が記憶として言葉に表せるのは三歳以後とされていますが、三歳前の、より幼い頃の悲しい・怖い・つらい体験は、言葉としては蘇らなくても体にしっかりと刻み込まれ、次の子育てに連鎖されることが多いので、心のあけほの期は周りの大人の愛情を十分に感じとらせることが重要で、このことへの理解を深めて、どこかで子育ての連鎖を断ち切らねばならないという警告もあります。

「相談しなければよかった」と、思われるようなことを述べてしまつてごめんなさいね。

でも、あなたは大丈夫だとおもいますが、だつて、それを十分わきまえて悩んでいらつしやるんですものね。

ただね、外国のお母さんと比べて、日本のお母さんは、子育ては楽しくない、つらいと思つている方が多いという調査があります。多分余りにも忙しすぎる生活の中で「よい親をしなければ」という緊張感が高いのかも知れませんね。

少し前、母親自身が幼い頃虐待されて育ち、そのトラウマが虐待を否定しながら、子どもをしていることが許せない、その時、自分が押さえられるかどうかという不安を持つ親子との出会いは、いづばいなのに、子どもを否定したり、けなしたり、ちよつとしたことで頭を叩く行為が再三見られ、活動でつまずくと「解らん」とすぐ投げ出してしまつて気になっていました。

健診の時、医師からも集中力のなさを指摘される等があつて、お母様と話し合いを持ちました。実は、その時始めて、幼い時虐待された育ち、子どもには絶対つらい思いはさせないと気をつけているが、やさしい夫と出会い、授かったこの子には身内がいないので、親が死んだら誰にも頼らず生きていかねばならないから、しつこく厳しくしているというお話を聞きました。

保育者たちは、子どもにはママの愛情をしっかりと伝えながら、根気よく認め、励ます中で自信・思考力・意欲を刺激し、少しずつ自分の力が出せるように気をつけ、よい変化がみえると、自分の喜びと共にお母さんに伝えるようにしました。喜びの表情は見せながら「でも〇〇は出来ませんよね」とけ

なし言葉を必ず発していたお母さんに、子育ての先輩ママからも「子どもはのびのびしたいことをさせて、間違つた方向に行きそつな時正したらいいのよ」等の助言をされ、少しずつですが、うれしい時には「よかったと抱きしめて」ということは受け入れられるようになりしました。パパ・ママの本児を思う気持ちは届いていて、気弱なところはありませんが、他児にも優しい子どもでした。

子育て世代間連鎖について十分心得ているあなたは、きつと衝動をコントロールし、自分で気分を整えて子育てをなさると思えますよ。

あまり色々悩まず、踏み切つて何かあるときは周りの方に率直に相談しながら、子育てなさつてみて下さい。保育園もきつとお力になりますよ。

藤岡 佐規子先生  
ふじおか さきこ



1946年、京都女子専門学校保育科を卒業後、光沢寺保育園に入職。以後一貫して乳児保育に従事。現在、光沢寺第二保育園園長。北九州市保育所連盟会長、国際婦人開発基金(ユニフェム)日本国内委員会北九州地域等委員会会長、財団法人アジア女性交流研究フォーラム理事、同児童福祉施設等第三者評価委員会・同社会福祉審議会各委員等(以上、現職)、この間、全国社会福祉協議会全国保育士会会長、福岡県保育協議会副会長、同保育士会会長、福岡県立大学・西南女学院短期大学非常勤講師等を務める。

- 仲間達への定期便(西部読売開発出版部)
- 育てよう、いきいきつ子(共著、蒼丘書林)
- 子どもと環境(共著、蒼丘書林)
- 感性を育てる保育実践領域環境と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 感性を育てる保育実践領域人間関係と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 感性を育てる保育実践領域言葉と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 保育園の窓辺から…(蒼丘書林)
- 視点はいつも、子どもたち 保育園の窓辺から…PART2(蒼丘書林)